

令和元年度富山県民生涯学習カレッジ運営会議について

1 設置目的

生涯学習カレッジの運営に関する基本的事項を調査審議するもの

【富山県民生涯学習カレッジ条例 第7条より】

2 委員名簿 13名（五十音順）

赤川 雅和	元富山短期大学幼児教育学科教授、新川地区センター運営会議会長
伊東 眞	滑川市教育委員会教育長
上埜眞知子	富山県婦人会事務局長
大西ゆかり	富山県PTA連合会副会長
笹田 茂樹	富山大学人間発達科学部教授、富山地区センター運営会議会長
清水 賢	富山県公民館連合会事務局長
立田ひろみ	公募委員
仲井 文之	富山国際大学子ども育成学部教授、砺波地区センター運営会議会長
中川美彩緒	富山県水墨美術館館長
中西 彰	富山県生涯学習団体協議会会長
深井 康子	富山短期大学食物栄養学科教授、高岡地区センター運営会議会長
藤田公仁子	富山大学地域連携推進機構生涯学習部門教授
松原 隆光	富山県経営者協会教育委員会委員長

3 会議概要

(1) 開催日時 令和2年2月26日（水）10:00～12:00

(2) 開催場所 富山県教育文化会館 403号室

(3) 議題

- ・生涯学習カレッジの運営に関する基本的事項について

(4) 会議資料

- ・富山県民生涯学習カレッジの運営に係る現状と課題
- ・地区センター運営会議 主な意見
- ・富山県民生涯学習カレッジの概要

(5) 配付資料（パンフレット等）

- ・学遊とやま
- ・とやま学遊ネット
- ・令和2年度 自遊塾 塾生募集要項
- ・県民カレッジ叢書（越中の武将と天下 講師 本郷 和人 氏）
- ・郷土学習教材「とやまの川の物語」（DVD）

～ 全国地域映像コンクール グランプリ（第1位）受賞 ～

4 審議事項等

■出席者

- 【運営委員】 赤川委員、上埜委員、大西委員、笹田委員、清水委員、立田委員、仲井委員、中川委員、中西委員、藤田委員
- 【事務局】 山崎学長、伊東新川地区センター副所長、上田富山地区センター所長、尾崎高岡地区センター所長、中明砺波地区センター所長、稲澤副学長、新村企画管理課長、中山映像センター課長、大野社会教育主事、梶尾社会教育主事、藤田生涯学習・文化財室社会教育主事

■開 会

(1) 学長挨拶

この会議は、生涯学習カレッジの運営に関する基本的事項について協議していただくこととなっている。県民カレッジの役割には、「情報収集・提供、学習相談」「学習機会の提供」「映像による学習支援」「学習交流の場の設定」があるが、今年度においても非常に良い形で実施できていると思っている。のちほど数値等を交え説明があるが、ご覧になっていただければと思う。一方、課題というのもたくさんあるわけであり、のちほど皆様からその課題も含め、色々ご意見をいただければと思う。よろしく願いたい。

(2) 委員紹介

(3) 会長挨拶

委員の皆さまにおかれては、日常的な生涯学習の学習者として、あるいは受講者として、色々な形で関わっていただければ、この会合における発言に重みが増すものと考えている。ぜひその点を任期である2年間、よろしく願いたいと考えている。

■富山県民生涯学習カレッジの運営に係る現状と課題（事務局説明）

○学習情報の収集・提供と学習相談への対応について

〔現状〕

- ・学習情報提供（とやま学遊ネットの検案件数）：H30…約83万件、R1(1月末まで)…約56万件
- ・学習相談：H30…約12万件、R1(1月末まで)…約12万件

〔課題〕

- ・「とやま学遊ネット」による学習情報提供を拡充すること
- ・学習相談の一層の充実を図ること

○多彩な学習機会の提供について

〔現状〕（以下、令和元年度の実績）

- ・夏季講座（566名）
- ・地域課題学び活かし講座（8講座・331名）
- ・人生100年時代特別講座（6講座・552名）
- ・ふるさと探求講座（25講座・949名）
- ・共学講座（127講座・1,002名）
- ・映像制作講座（4講座・70名）
- ・自遊塾（県民教授79名・99講座・1,368名）
- ・学習団体講座（537名）

〔課題〕

- ・県民の学習ニーズに対応した講座を開設していくこと
- ・主催講座の受講者数を増やしていくこと
- ・講義の7割以上を受講し講座修了を認定された方の割合「修了率」を上げること
- ・60歳代及び50歳代以下の受講者を増やしていくこと

- ・新規受講者を増やしていくこと

○映像による学習支援について

〔現状〕（以下、平成 30 年度の実績）

- ・映像の貸出等活用支援：学習教材等の貸出（1,935 本・41,112 人視聴）、とやまデジタル映像ライブラリー（12,766 回再生）
- ・優秀映像鑑賞推進：優秀映像上映会（78 回・1,758 人）
- ・ふるさととやまの映像制作：R1 制作「とやまの川の物語～RI 全国地域映像コンクール グランプリ受賞

〔課題〕

- ・映像学習教材等の貸出を一層増やしていくこと
- ・映像配信による映像学習教材の活用（再生）を一層増やしていくこと
- ・優秀映像上映会の参加者を一層増やしていくこと
- ・制作する映像教材のテーマ・内容を検討すること（3 年計画）

○学習交流や学習成果の発表の支援について

〔現状〕（以下、令和元年度の実績）

- ・本部学遊祭（1,480 人参加） ・地区学遊祭、キャンパス・フェスティバル（合計 4,068 人参加）

〔課題〕

- ・学遊祭、キャンパス・フェスティバルへの参加者を一層増やしていくこと
- ・県民カレッジ本部の学遊祭に参加する学習団体の参加を増やすこと

***** 質 疑 応 答 *****

【会長】 （途中退席予定の委員に対し）今までの説明や資料全体を含めて、ご意見をお願いしたい。

【委員】 人生 100 年時代と言われているが、若い人のリカレントをどうしていくか、というのが大きなテーマになると考えている。県民カレッジは、50 歳代以下、60 歳代というところは、他の機関よりも少し多めの受講者を獲得していると思う。これは、講座の開き方・学習機会の提供の仕方について、若い世代を視野に入れて今年度取り組まれた成果なのかなと思われる。今後も続けていただきたい。また、30～50 歳代の方が求める課題というものに目配りをしていただけたらと思う。とはいえ、人生 100 年時代の 70～80 歳代の方々も学ぶ意欲が高いというのはカレッジの 30 年の蓄積の賜物ではないかと思っている。私は今年度、カレッジ地区センターの「人生 100 年時代特別講座」で講師を務めたが、受講された 70～80 歳代の方々が、積極的に大学の学習相談に来ておられる。その相談も「学ぶ機会」と「活躍の機会」の両方をお尋ねになる方が多い。「大学への進学・専門的な学びを得たい」という相談が多い。（生涯学習の意欲ある方が）「今後どうしていったらいいのか」ということに対する情報提供が課題で、カレッジとも連携を取っていければと思っている。映像センターの映像は、富山に関わるものについて強みがある。もっと使われてもいいのではないかと。大学の教員にも情報提供していただければと思う。学習団体については、団体の減少は全国的な傾向。もう少し目的意識等（何のための団体か・何ができるのか）を明確にしながらかみ進まれた方が、崩壊状態にならないのではないかと考えている。団体からも相談があり、「これからどうすればいいのか、プログラムを作ってほしい・作り方を学びたい」というような学習相談・要望も来ているので、そういったところも県民カレッジと連携をとって進めていく必要があるのではないかと考えている。先ほどの今年度の報告にあったが、学習機会に対する新しいチャレンジが相当みられるようであり、この歩みを止めてほしくないと思う。現代的な課題、学習ニーズに即した学びというのは、生涯学習の機会を提供するところとしては、プラットフォーム的役割を担っていると思っている。今後とも情報提供と連携というところにネットワークを構築させていただきたいと思う。

【会長】 学習団体に関して、プログラムに関するご発言があったが、具体的にはどのようなプログラムか。

【委員】 「富山県について、どのような活動を行っていけばよいか」「ほかの団体とどのように差別化を図ればよいか」「今後将来に向け、どのような活動が考えられるか」「先進事例を紹介してほしい」などであるが、ただこれに対しては、富山県のなかでどのような活動が必要であるかの分析が必要であると考えている。

【会長】 学習団体の数が目減りしているのは事実であり、その都度、役員や会員の皆さんにお話しているのは、ひとつは、仲間を増やすというのは、自分たちの組織を守るということではなくて、せっかくの団体の学びの場があるので、県民の多くの人にそういう機会があるのを知ってもらって、学習の機会を享受していただくという気持ちで皆さんに広げてほしい。特にその方法として、すでにある学習団体から地域ごとに分けられるとか、中心となる人物が出てきたらその人が独立して類似の団体を形成していくとか、いわば細胞分裂となるような状態が望ましいということである。もうひとつは、県外から入ってこられる人が、一旦(その活動に)食いつかれると、意外と強力な援軍になるということがあるので、そういうところにぜひアタックしてほしい、ということも申しあげているところである。今いただいた委員のご意見を参考にし、また色々工夫していきたい。その他、事務局からコメントできることがあればお願いしたい。

【事務局】 学習団体については、委員ご発言のとおり、バックアップということも県民カレッジの重要な役割の一つと考えている。自遊塾でも、のれん分けのような形で新しく講座を立ち上げるケースもあり、そのような普及の役割を果たしていると考えている。色々な機関の協力を得ながら、役割を果たしていければと考えている。

【事務局】 「学習機会がニーズに即応しているか」というお話があったが、毎年、講座終了後のアンケートや様々なニーズ調査などにより、どういう学習機会が求められているのか把握するようしており、その都度、それに呼応する形で、新たな分野として取り組んでいくという形をとっている。今年度行っている講座も、ご覧のとおり色んな分野のものが入っている。今後とも、日々刻々と変化するニーズに対応していくことが重要と考えている。

また、年齢層のお話が出たが、今、70歳代が非常に多い。よくよく考えてみると、10年前は60歳代であり、10年前から熱心な人たちだったわけである。今の60歳代は働いている人が以前に比べると多い。条件とすると中々受講に行けないという立場の中で、これだけ受講しているというのは非常な成果なのかな、と見ている。またもうひとつは、今70歳代というと「団塊の世代」ということで、もともと分母が多い。今60歳代に入ったばかりの方というのはそれに比べると非常に少ないので、当然分母が少ないと思うので、そうした中、その割にはたくさん受講されるようになったのかなという風に考えている。

■地区センター運営会議における主な意見（地区センター会長説明）

○新川地区センター

全体としては、地域のニーズに応え、これまでの運営委員会で出た意見を反映させてセンターの運営はうまくいっている、講座なども好評であると言える。

<学習機会の提供>

- ・「人生100年時代特別講座」について、50歳代の受講が皆無だったことは残念。講座の趣旨というものが十分伝わっていないのではないかと、もっとターゲットを定めた広報の仕方が必要であろうとの意見あり。
- ・「地域課題学び活かし講座」については、地域独自の課題を汲み上げる必要がある。
- ・「ふるさと探求講座」について、講座に「専門」という名前が付くと、どうも尻込みされるのではないかと。専門の中身をかみ砕いたような広報の仕方、地域に結びついた広報の仕方が出来ないか。また、学芸員が講師となっている場合、博物館や美術館で講義を聴く等、場所を工夫し

てアクティブなものにする方法も考えてはどうか。

<学習交流>

- ・学ぶ意欲のある人の交通手段をどう確保するか。新川地区センターは車でないと来られない。交通手段がないことから、近隣の公民館等に行ってしまうのではないか。新川地区センターの特徴を際立たせ、他との棲み分けがうまくいけば、より魅力のある地区センターになると思う。

○富山地区センター

全体的には活動も非常に盛んになっており、いい傾向が出ているのではないか。

<学習機会の提供>

- ・現地研修は人気があるが、どのような移動手段が確保できるかを考えていく必要がある。

<学習情報の提供>

- ・学遊ネットの利用状況について、アクセス数が減っているという話があったが、QRコードについては前回の運営会議を受けて改善されている。今後も改善点を考えながら、情報提供の機会を出来るだけ増やしていかなければならない。
- ・センターだよりやチラシをアピールできるものにする、置く場所を工夫するなど、情報提供の機会を増やしてほしい。

<学習交流>

- ・学遊祭の来場者数は昨年度よりやや減少したが、一昨年度よりはかなり多く、悪い傾向ではない。
- ・学遊祭を高校生の学園祭と一緒に行うのはとても有意義なことだと感じる。共学講座もユニークな取り組みで、素晴らしい学習機会なので、今後も活性化してほしい。

○高岡地区センター

<学習機会の提供>

- ・ふるさと探究講座（基礎）が使用している部屋の収容人数に対し申込者数が大変多い。予算等の制約があると思うが、講座数を増やすことは出来ないか。
- ・「地域課題学び活かし講座」はアウトプットにつながっているのか。受講を通して地域課題を解決しようと思えるような場で何か行動できないだろうか。

<学習情報の提供>

- ・新規受講者の情報入手先の分析が必要だ。定年間近で何かやりたいと考えている人が、図書館や公民館、生涯学習機関等で情報にリーチできているのか確認が必要だ。受講者アンケートを取り、効率的な広報の仕方を考えてほしい。

<学習交流>

- ・来場してもらいやすいスケジュールを確認し、高校生も建物内（ウイング・ウイング高岡）をうまく回れるようにするとよい。県民カレッジのPRの機会としてほしい。50歳代ぐらいであろう高校生の保護者にPRすることも考えられる。

○砺波地区センター

全体として、受講者及び運営委員の声を聴き、非常にうまく運営されていると言える。

<学習機会の提供>

- ・わくわくシアターの来場者数は少しずつ増えてきてはいるが、1回当たりの人数は十分とは言えない。仲間を求めてきている人に対し、飲食などでリラックスした雰囲気を出したり、サロン化することなど出来ないか。

<学習情報の提供>

- ・40～50歳代の受講は以前になかったことで驚いている。昨年の運営会議における「町内会にチラシ等の広報を入れたらどうか」との意見を実行された成果と考えている。その行動力を評価したい。QRコードの案内ということも実際にされ、申込者の増加、若い世代への周知につながっているのではないか。

- ・いずれは、すべてスマホの時代になると思うが、今現在、受講者の方で使いこなしていない方への学びの機会を提供できないか。

<学習相談>

- ・「学習相談をするのに、非常に来やすい」と好評であった。

<学習交流>

- ・学遊祭の来場者が年々増えてきている。高校生や学習団体との交流がうまく運営されているのではないか。

***** 質 疑 応 答 *****

■学習機会の収集・提供と学習相談への対応について

- 【委員】 新規受講者がなかなか増えない、ということと学習ニーズへの対応ということが結びついているのかなと感じたが、受講していない人からの意見を聴くという機会がどこかであれば何とか新規開拓出来るかなと思った。県民カレッジのようなところを知らない人を含め、こちらに足が向かない本当の理由は何か、何がネックなのかということを集約することは出来ないのか。
- 【委員】 情報提供にも関わるが、新川地区では「センターだより」を地域の回覧板で回すようになって数年になる。人生 100 年時代ということで、若い層をターゲットにすることに関しては、企業の福利厚生や退職者説明会などで「(県民カレッジで)こんなことをやっていますよ」「こういう場で学びませんか」というようなことをお知らせしたらどうかという意見が出た。
- 【委員】 情報の発信や提供については、昨今スマホ等の時代になって QR コードなどネットからの発信というところをどんどん進めていけばいいのではないかと、という雰囲気を感じるし、我々も活動するうえでスマホからの情報発信を心掛けてはいるが、何といっても紙ベースの周知が効果的ということも踏まえると、スマホからもメディアからも紙ベースからも情報発信することが大事。万遍なくどなたでも見られるようにしていただければと思う。
- 【事務局】 若手・新規受講者の獲得、それから学習ニーズに応じた対応ということについては、まさにそのとおりである。最近の傾向として、県民カレッジの受講者については、依然として 70 歳代が多いということはあるが、一方で若い人も増えてきている。新規受講者ということで言うと、これは年齢問わずではあるが、ここ数年で毎年 1000 人前後の新しい受講者、去年今年では若干少なく多分 700 人台くらいと思われるが、これは決して少ない数字ではないと認識している。今後とも、新しい方・若い方が受講されるような手立て・工夫が必要だと考えている。また、企業への広報については、富山地区センターの運営会議において提案があり、実施したと聞いている。今後ともそういったところを工夫すればいいのではないかとと思う。スマホについては残念ながら(学遊ネットは)対応していないが、見ることは出来る。今後はスマホに対応した画面になればいいのかなと思っている。とは言っても紙ベースでの情報も大事ということであるので、今後とも続けていく必要があると考えている。ただ一方で、新規受講者というのは、近所の人等の口コミで来る、という話も聞いた。大統領選挙も地域のオピニオンリーダーの口コミで投票行動を決めているという話もある。同じように熱心な受講者からの口コミというのも大事ではないかと考えている。いずれにしても、ネットを通じた情報発信と紙ベースについても今後とも継続していくということと、更には口コミという形で流れていけばいいのではないかと考えている。

■多彩な学習機会の提供について

- 【委員】 私事だが、昨年夏に学校司書教諭の講習会に関わったが、退職間際の受講者がたくさんおら

れ、「退職後にボランティアで働いてみたい」というようなことを言われる。「人生 100 年時代とはこういうことを言うのか」と思い、退職を境にどう生きていくかということの講座というのは大事なんだなとつくづく感じた次第。やはり 70 歳代の方の生きがいというか、生涯学習というのはアウトプットまで求めるのではなく、インプットすること自体が喜びという、今を楽しく生きるために必要だという部分もあるのではないかな。そのためには、地域に出かけていく講座というものがあってもよいのではないかな。

【委員】 夏季講座について、年1回の中央講師ということで落ち着いているが、この講座は、学生や働いている人たちがまず最初に、中央講師に触れる、生涯学習の大きな入り口・広報の機会と思っている。裾野を大きく広げるという意味で夏季講座を位置づけて、その機会を増やしていただけたらと思う。

【委員】 今回配付された資料を見て、県の方でこのような事業をやっていたからこそ、県民がそれを享受し楽しい人生を生きていくことが出来るんだなと感じた次第。事務局にお礼申し上げたい。私は自遊塾の講師をしているが、受講生が「もっとやりたい」という気持ちになり、そのメンバーと年1回の発表をするが、その練習を生きがいにしている。自遊塾の講座をきっかけにしている人も大変多いということを知ってほしい。楽しく生きていくということにつながるのであれば、インプットが必ずしもアウトプットにつながらなくてもいいのでは。若い人の受講者の増加については、土日に講座を開講しても家族と過ごすなど、受講につながりにくいだろう。やはり時間に余裕のある退職者が今後増えるわけなので、その方々の生きがいを高めていくことも必要ではないかと思う。ただし、受講生募集にあたり、希望者が多い場合、何人まで受け入れるのかの幅も考えていかなければならない。それを明確にししないと広報もなかなか徹底しないのではないかなと思っている。今後、生涯学習の機会をもって生きがいになっていけば、いい世の中になると思っている。

【会長】 自遊塾が大変盛況というお話であったが、ぜひそこから生涯学習団体の方へ仲間入りしていただく大変ありがたい。

【事務局】 夏季講座については、過去は年に複数回開催していたが、現在は諸事情により年1回となっている。非常に人気があり、中央の著名な方を招いての講座なので、今後も続ける必要があると考えている。回数については予算のこともありなかなか難しいが、可能な状況であれば、ここ数年、年2回開催したりしている(夏季講座という名称ではないが)ので、そのようにしていきたい。学生の受講のきっかけづくりに関しては、ここ最近、絶対数は多くはないが高校生がけっこう受講している。今までにない傾向と思っているので、高校生も大学生も聴きに来るようになればいいのかなと思う。自遊塾については、委員のおっしゃるとおり、学習のきっかけづくりになればよいと思っている。自遊塾は講師と受講者が共に学ぶというスタンスのものであり、それがひとつのグループになっているケースも結構あるようである。今後ともそれぞれの学習のきっかけづくりになるとよいと思う。また、「若い人を対象にしているようですが…」というお話があったが、若い人ばかりを対象に考えていないので、講座によっては、ということで、「人生 100 年時代特別講座」に関しては、50～60 歳代を対象に内容設定しているところであるが、実際には 70 歳代が多いとかの状況となっており、今後内容的にも考えて実施する必要があると思っている。もちろん 60～70 歳代を対象にした講座もやっていたかなければならないと思っている。自遊塾は割と若い人が多く、50 歳代以下の割合が 17%であり、他の講座に比べると非常に多い。そういう意味でも非常に可能性があると思っている。

【会長】 カレッジの初期のころは、中央から講師を招く講座が全体で 30 近くあった。ここ数年、夏季講座としては年1回であるが、「人生 100 年時代特別講座」など、2、3回大きなホールでの講座を実現していることは大変ありがたいと思っている。そういうニーズがあるということをベースに、出来れば講座の回数増の働きかけをしていただければと思う。

【事務局】 時代に応じて、地域における課題となるものが変化している。アンケートで吸い上げたり、公民館を通して聞いたりするのは大切なことと思う。学習団体のお話もあったが、次の学習団体の新たな芽生えというのはおそらくそういう地域の中に案外ヒントがあるのではないかなと思う。今年の春から自遊塾のボランティア講師をやりたいと思っている。教える場を与えていただくということで、自分の持っているもので何が出来るか、色んな形で活動していけることのありがたさのようなものを伝えていきたいと思っている。

【委員】 50 歳代以下の参加率の低い講座ほど修了率が高いということをお聞きし、これはやはり 70 歳

代以上の人たちというのは、やり遂げる熱意・学習意欲が高いということだと思うが、若い時から、学ぶということが自分の中で常態化しているというか、その興味を県民カレッジが育ててこられたということを感じて。今後、様々な方の興味を全方向的にどう捉えていくかということは大変なことだと思うが、続けていただければいいのではないかと。また、高齢の方の生きるパワーというか、時間があり、知恵・経験があるというものを若い人たちに伝えていく講座もあっていいのではないかと。色んな人を誘う試みとして、親子で参加できるような、また考える機会となるようなものもあつたらいいのではないかと。インターネットやパンフレットを拝見していつも思うのは「わっ、多い」ということ。パッと見て、ここから自分の興味あるものを掘り出していかなければいけないということが億劫になることがある。一般にトップページに情報を詰め込みすぎている。良く検索されている記事がトップに並んでいたり、検索したくなるページがスマホで見ることが出来ればいいな、というのが一個人としての感想である。

【委員】 私たちの世代は子育てや家事など色々することが多く、仲間内でも「県民カレッジを受講している」というのはあまり聞かないのが現状。だが、大人が学んでいる姿を子供が見るのは大変すばらしいことで、時間や機会があれば広めていきたいと思う。仕事上、公民館を回ることがしばしばあるが、各地域の公民館に集まる方々は「学びたい」「何かやりたい」ということが多い。そういう方々から「何かしてくれないか」という要望がある。気軽に行ける公民館で何かするための後押しのような仕掛けがあれば、そういったものを紹介出来ればいいなと思う。

【委員】 資料を見て、県民の学習意欲や、県民カレッジの非常に工夫した講座により参加者が非常に増えているということを感じた。夏季講座や楠木新氏の講演会に 50 歳代以下の方が 30%以上参加されたということであり、まさに若い方々のターゲットをうまく掴んだなど、素晴らしいと思う。公民館関係でいうと、学遊ネットの利用では、地域によって温度差が大きい。熱心なところでは、公民館だよりに学遊ネットを紹介している。公民館指導員の研修会でも2回ほど、学遊ネットの掲載の仕方の研修を実施した。それで情報を掲載する公民館も増えてきた。情報というものが各公民館にもっと伝わればいいな、というはある。ただ、公立公民館のコミュニティセンター化ということが言われ、そうすると、生涯学習というのがちょっとなおざりにならないか懸念している。そういうこともあり、公民館に大きなポスターが貼ってあるなどすれば「公民館に行けば情報がある」ということになり、それに気づいたりして貰えればうれしい。

【会長】 もともと公民館が持っていた「学び」という機能をぜひ維持してほしい。コミュニティセンター化となれば、公民館が自分たちで企画していた講座などは中々開催しにくいと思われるので、各市町村でそういう動きが出た場合に、「学びの機能の保持」ということを皆さんが、地域における生涯学習推進の中核的存在という立場で主張していただければ大変ありがたいと思う。

【事務局】 いただいたご意見から、人生 100 年時代を見据え、80 歳代以上の方に多く受講いただくためには、駅から近い場所などを講座の会場として考える時代が来ているのかもしれないと感じた。一方、40 歳代など比較的若い方に受講いただく場合は、講座の内容や広報の仕方、メディアをうまく使っていくことが必要であると感じた。幅広い年齢層への配慮が必要。それから自遊塾について講師の側に焦点を当てると、県民にこれまでの知識や経験を活かしていただく「活躍の場」を提供しているという観点も必要だと思われる。これも県民カレッジの大事な役割の一つではないか。

【事務局】 公民館のお話が出たが、英語で訳すと「コミュニティラーニングセンター」というのが公民館だろう。つまりコミュニティの学習センターである。であるので、学習機会の提供も、学習情報の提供も行い、学習相談にも応じるというのが公民館の大事な役割としてあるようだ。そういった意味で公民館も今後とも学習機会の提供も含めて活動されるのではないかと思う。学遊ネットでは、公民館情報も載せており、閲覧される方も多い。アクセス件数は全体の2割強。公民館ネットの情報は、各公民館で入力できるようになっており、そこがもう少し全県的に徹底されれば充実したデータが出来るのではないかと思う。また、学遊ネットの情報検索について、多岐にわたり幅広く、求めるところに行きつくまで非常に深い。核となるシステムに色々付け足していった結果このようになったものであり、ちょっと整理しないといけないのではないかと。というのが一つの大きな課題として残っている。よくわかっている人は速やかに情報にたどり着いているが、アクセスが多いのが、本部に係る情報と映像ライブラリー。あと地区センターのアクセスも多い。そして公民館の方が多い。それを前面に出し

たらいいんじゃないかということもあるかと思うが、それも含め今後考えなくてはいけない。修了率について、昨年度位から課題にしておき、これを上げるにはということで皆様から色々なご意見をいただいた。開催時期・回数・内容だとか、そういったものを工夫する結果として修了率は上がるのではないかとのご意見をいただき、その点を踏まえて色々工夫した結果、今年はずいぶん上がったと思う。昨年はずいぶん7割だったと思うが今は8割を超えるところが結構出てきており、ただし70%の出席(で修了)というのは大変な数字であり、5回・6回シリーズで作っている講座を修了するには、1回しか休めない。これは大変なことであり、そういう意味でも修了率が上がっているのは、時期・内容・形態も含めていい形で構成されたからではないか。あと定員についてのお話があったが、特に「人生100年時代特別講座」は今年度初めて行った講座であるが、予想を上回る、かなり定員を上回る申込みであり、施設が可能であれば多めに受け入れるようにしたものであり、今後ともそのようにしていけばいいのではないかと考えている。

■映像による学習支援について

- 【委員】 実際にどのように貸し出しされ、どんな場でどういう風に活用されているのか。
- 【委員】 富山湾のものを見せてもらったが、非常に素晴らしい。これを広めていくためにどのようなことをやっているのか。
- 【委員】 貸出しの際の制限などはあるか。使い終わった後、アンケートなど報告しなければいけないのか。
- 【委員】 学校に配布しているのか。
- 【事務局】 郷土学習教材については、たくさんお問い合わせをいただいている。これまでもグランプリを取ってきたこともあり、各種機会でご紹介いただいていたこともあったと思う。貸出しについては、映像センターでは、DVDとブルーレイという形で貸し出している。併せて、とやまデジタル映像ライブラリー、インターネット上であるが、そちらでも視聴することが出来るようになっている。特に貸出しの制限はない。無料で、どなたが借りてもよい。どのような形で何人の方が視聴されたかということも報告してもらっている。配布先は、例年各学校・教育機関等であるが、今年度は試験的に公民館にも配布した。公民館から大変問い合わせが増え、「ぜひ活用したい」とのご意見をたくさんいただいている。過去の郷土学習教材についての問い合わせも増えているので、今後、推移を見ていきたい。多くの県民に知ってもらいたいと考えており、映像センターの広報について、お知恵があればお教えいただきたい。
- 【事務局】 これまで公民館から借りに来られる場合もあったので、今回は公民館にも配布したものの。インターネットから見る事が出来るが、わかりにくい状態。県外の方に多く利用いただいている。全部で1200本視聴することが出来る。さきほど「学生に見せたら」とのご意見があったが、ネット上から見ることも出来るので検討いただければよいと思う。

■学習交流や学習成果の発表の支援について

- 【会長】 各地区の学遊祭・キャンパス・フェスティバルについて、各地区から報告願いたい。
- 【事務局】 新川地区センターでは、前期において、立山曼荼羅の絵解きについてという講座を現地のお寺において行い、大好評であった。その学びの広がりとして、今年度は立山博物館職員においでいただき、ミニ講座や展示など展開していただき、これも大変好評であった。なお、高校生などもたくさん参加していただき、大変賑わったと思っている。こうした取り組みを来年度も続けたい。
- 【事務局】 富山地区センターでは、雄峰高校の学遊祭と同時開催している。色々な学習団体の展示発表があるが、今年度は出来るだけ新しい方にしてもらっている。当日は高校生も受講生も見て回り大変賑わっており、交流の場としてお互いに良いと感じている。
- 【事務局】 高岡地区センターでは、今回は高校とセンターの意思統一ができ、結構人出が多かったかと思

う。

【事務局】 砺波地区センターでは、受講生の絵などの展示や、餅つきなど催し物をする事で、単に年配の受講者だけではなくて、ご家族と一緒に来られるとか、お子さんなども来るとか、多様な年代を惹きつける力があるなと思った。「カレッジはこんなことをしている」ということを発信出来る機会になると十分に感じた。年代を超えて交流・発信できる仕掛けをこれからも何か出来ないかと思っている。

■その他(総括)

【事務局】 各地区の学遊祭・キャンパス・フェスティバルは、地域貢献・地域の活性化という意味でも、非常に大事だと考えている。また、学遊祭等に初めて参加される方もいると思われるので、受講を促す機会と捉えた取組みも必要ではないか。県民カレッジでの学びやイベントに参加するということを社会参加と捉えると、受講者の心身の健康にも大いに役立っているのではないかと思う。

【会長】 カレッジ本部・各地区センターにおかれては、本日いただいたご意見を色んな所で活かしていただければと思う。

■閉 会【学長】

昨年度もこの場においていろんなご意見をいただき、先ほど修了率の話もしたが、皆さんのご意見を踏まえて、今年度それを活かした形で講座を行った成果として修了率が上がったものと思っている。その他色々なご意見をいただいたこと、今年新たにいただいたご意見もあったので、それを踏まえてまた来年度に活かしたいと思う。